

ふじのくに 静岡みなと通信

第29号

2020.1.23



うぐす
宇久須から望む新春の富士(提供:西伊豆町)

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「第29号」発行に寄せて(西伊豆町長)..... 1
- みなとニュース..... 2
- 静岡県港湾振興会の活動報告..... 7
- 清水港開港120周年記念事業の開催..... 9
- みなと自慢(浜名港)..... 11
- 港こぼれ話..... 13
- 港湾関係行事予定..... 15

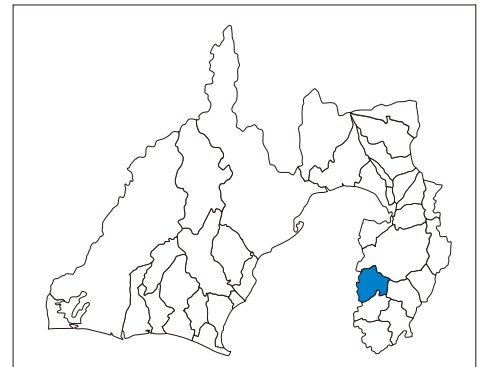


浜名湖弁天島の夕陽(提供:浜松市)

静岡みなと通信「第29号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員
西伊豆町長 星野 浄晋



港湾は、国民生活と産業活動を支える重要な物流と輸送の基盤であるとともに、災害により陸路の交通手段が寸断された場合には、緊急物資等の運搬や災害復旧・復興の拠点として大変重要な役割を担っております。

伊豆半島西海岸の中央に位置する宇久須港は、沼津方面からの海上交通の玄関口として、古くからガラスの原材料の珪石や建設用石材等の積出港として発展してきました。

そうした伊豆地区でも有数の砕石積出港としての顔がある一方、伊豆地区最大規模の公営キャンプ場を有し、



夕陽百選「大田子海岸」の夕陽



深田クリスタルビーチで行われる「夕映えの響き」

毎年夏には多くの観光客が訪れ、観光立町を唱える当町の観光レクリエーションの拠点としての役割も担っております。

また、当町では平成17年に「夕陽日本一宣言」を行い、日本の夕陽百選に指定されている大田子海岸をはじめ、堂ヶ島・黄金崎などの数多くの夕陽スポットを有し、空と海、奇岩群や漁船が夕景と交わる光景は格別の美しさを魅せます。

宇久須港では、前述したキャンプ場に隣接する深田クリスタルビーチにおいて、毎年9月、夕陽をバックに無料の野外コンサート「夕映えの響き」を開催するなど、海を活用したイベントやレジャーにより、毎年県内外から多くの方々を訪れ賑わいを見せております。

私たち「静岡県港湾振興会」は、これからも港湾施設の利便性向上と環境整備の充実、災害に強い施設の強化等を図るため、積極的に活動してまいります。本誌や本会の活動を通じて、より多くの皆様に港湾の整備と利用促進に対しての一層のご理解、ご支援を賜れば幸いに存じます。



黄金崎の夕景



夏の風物詩「サンマ船」の出港



みなとニュース



駿河湾魅力発見親子ツアー・駿河湾フォトコンテストの開催

県は、平成31年2月23日から3月9日までに全4回にわたり、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している駿河湾の魅力を知っていただくため、沿岸市町の御協力のもと、小学生を対象とした親子ツアーを開催しました。

当日は、駿河湾講座や駿河湾フェリーへの乗船、地層の見学などを通じて、駿河湾の魅力を再発見しました。

また、親子ツアーの開催に合わせ、平成31年2月23日から3月13日まで、『伝えたい「世界で最も美しい駿河湾」の魅力』をテーマに、駿河湾フォトコンテストを開催しました。

審査の結果、応募232点のうち30点が受賞し、特選の駿河湾賞には、西伊豆町の藤井駒一さんの作品「波濤(はとう)」(撮影地:伊豆市八木沢海岸)が選ばれ、宮尾静岡県交通基盤部長から表彰状を贈りました。



駿河湾魅力発見親子ツアーの様子



特選駿河湾賞「波濤(はとう)」

清水港をモデル港とした農産物海上輸送試験の実施

現在、国では、農林水産物・食品の輸出拡大に取り組んでおり、県でも平成30年2月に国土交通省に認定された清水港における農水産物輸出促進計画に基づき、冷凍・冷蔵コンテナ電源供給設備を増設するなど農水産物の輸出環境の整備を進めています。

今年度は、国土交通省中部地方整備局が海上輸送における課題抽出と対応策を検討するため、高規格冷蔵コンテナを用いて清水港をモデル港とした農産物海上輸送試験を4回行うこととしている。第1回目として、令和元年8月1日(木)から21日(水)の間、シンガポール港へ向けて、静岡県産のアメーラトマトやクラウンメロンを含む農産物全28品目の海上輸送試験を行いました。

シンガポール港到着後の品質検査の結果で、全28品目のうち24品目について販売に適する状態であることが確認されました。



熱海港・清水港

「釣り文化振興促進モデル港」に指定!!

国土交通省港湾局は、港湾内の釣り施設や既存の防波堤等の有効活用により、釣り文化振興を促進する港湾を「モデル港」に指定することとしました。

県内では、熱海市と静岡市が地元関係者と調整の上、応募し、熱海港と清水港がモデル港に指定されました。

清水港では、「清水港フィッシングエリア振興協議会(SFA)」と協議調整を図り、年間5回程度、日の出岸壁を釣り開放しています。さらに、新興津地区において、海釣り公園整備に着手し、釣り文化振興に取り組んでいます。

熱海港では、和田磯防波堤を熱海港海釣り施設として開放(有料)し、地域貢献及び観光やファミリー層の誘致対策に取り組んでいます。また、NPO法人SEAWEBが委託契約を受託し、管理運営を行なうとともに、貸し竿等のサービスの充実を図っています。

今後も、地元と連携して、安全で楽しい釣り文化振興の取組を促進して参ります。



清水港日の出岸壁 釣り開放の様子



熱海港海釣り施設(和田磯防波堤)

田子の浦港に『鈴川海浜スポーツ公園』完成

平成31年4月、田子の浦港の鈴川海岸に、計画段階から地域住民と協働で整備を進めてきた「鈴川海浜スポーツ公園」が完成しました。

駿河湾の湾奥部に位置する鈴川海岸は、南に日本一深い駿河湾、北に日本一高い富士山を仰ぐことができる見晴らしの良い海岸です。一方で、高潮・高波などで幾度となく甚大な被害を受けてきた自然条件の厳しい海岸であり、現在の原型となる海岸堤防(標高17m)は、高潮・高波被害から地域住民を守るため昭和40年代に整備されたものです。

平成に入り田子の浦港の海底に溜まる土砂の処分先の確保が課題となり、地域住民との話し合いの結果、海底の掘削土砂を活用して既存堤防の幅を広げる堤防補強を行うこととなりました。そして、補強工事で広がる堤防上面を利用して整備したのが『鈴川海浜スポーツ公園』です。

“躍動とスポーツ”をコンセプトとした当公園は、地域住民とのワークショップで出された意見を反映させた施設配置となっており、約1.7haの多目的広場など広々とした空間でスポーツを楽しむことができます。今後は、地域の皆様とともに地域に根差した公園運営に取り組んでいきます。



富士山と鈴川海浜スポーツ公園



堤防上面を利用した海浜公園



パークゴルフ大会の様子

稲取漁港直売所「こらっしえ」オープン

伊豆漁協と伊豆太陽農協の連携による稲取漁港直売所が平成31年4月19日(金)にグランドオープンしました。店名の「こらっしえ」は地元の言葉で「どうぞ、いらっしやい」の意味。店舗の半分は漁協の直売、半分が農協の直売という構成で、漁協と農協の連携は全国でも珍しい事例です。

地元で水揚げされたキンメダイや定置網の朝獲れ鮮魚の他、農家が出品する新鮮な野菜や果物、東伊豆町の地域認定商品など、伊豆東海岸ならではの農水産物や加工品を産地直売し、平日は普段使いの食材を求める地元住民、週末は伊豆を訪れる観光客等で賑わっています。

店内から岸壁にならぶ漁船が見え、潮風や海の雰囲気を感じられる立地です。地元飲食店によるお弁当や惣菜類、カフェやドリンクの販売もあり、屋外ベンチで食べるとちょっとしたピクニック気分を味わえます。

売れ筋は「稲取キンメ」の関連商品。鮮魚の他、冷凍、煮付け、干物等の加工品パック、常温の持ち帰り用には金目鯛せんべいなど、品揃え豊富です。

直売所の性格上、午前中の来店がお勧めです。そろそろ河津桜のシーズンを迎え、一足はやい春を見つけに、伊豆方面へお越しの際はぜひお立ち寄りください。

営業時間／8:30～15:00 定休日／毎月第2火曜日、12月31日
連絡先／0557-95-2023



稲取漁協直売所「こらっしえ」



店内の様子

沼津港を拠点に「シェアサイクルサービス」を開始

平成30年には約166万人が訪れ、年々賑わいを増している沼津港を拠点に、平成31年4月下旬から、加和太建設(株)により、シェアサイクルサービス「ハレノヒサイクル」が始まりました。同サービスは、沼津港を訪れる観光客に新たな移動手段を提供するものであり、沼津の“みなと”と“まち”を結ぶことで、市街地と港周辺双方の活性化につながることを期待されます。

サービス開始以降は、沼津港周辺の利用だけでなく、千本浜



サービス開始を記念したイベントの様子



や三津などへの遠乗りや、三島市から沼津港への移動にも利用されており、静岡県東部地区に約40カ所あるステーションの中で、沼津港をはじめ、沼津市内の各ステーションが好調な利用率を記録するなど、多くの方々に利用されています。

是非、シェアサイクルサービスで沼津港やその周辺の散策をお楽しみください。

清水港の新たな将来像を示す「清水港長期構想」を策定

県は、中部横断自動車道の全線開通や、革新技術を活用した物流の進展を踏まえ、清水港のおおむね20年後のあるべき姿とその実現に向けた空間利用の方向性を取りまとめた長期構想を令和元年8月に策定し、公表しました。

この長期構想は、基本理念である、物流、エネルギー、災害、環境等の様々な社会課題に対応可能な「知」を備えた「美」しいみなと「スマート」ガーデン ポート 清水の実現に向け、地区ごとに基本戦略や取組施策等を取りまとめています。

今後、この長期構想に沿った、10～15年間の具体的な整備計画となる、港湾法に基づく港湾計画を令和2年度末を目途に改訂し、次世代コンテナターミナルや、国際クルーズ拠点の形成、魅力ある水辺空間の創出、災害時の緊急物資受入拠点の整備などを進めていきます。



榛原港海岸で「津波対策事業 感謝式典」が開催されました!

令和元年10月26日(土)に、榛原港海岸の静波地区で、『レベル1津波対策事業感謝式典』が、牧之原市と地元の地区長会の主催により開催されました。

この式典は、国・県・市が進める牧之原市沿岸の海岸堤防の整備促進に向け、市民の事業への理解と防災意識の向上及び市全体で事業を盛り上げていくことを目的に、地元選出議員や自治会関係者、行政関係者など約150名が出席して盛大に行われ、津波対策推進に対する地域の方々の期待の大きさを感じました。

榛原港海岸の堤防は、これまで、第3次地震被害想定津波高及び高潮高を満足する施設として整備・管理してきましたが、第4次地震被害想定におけるレベル1の津波高を満足するとともに、これを超越する津波に対しても減災効果が発揮できるように、粘り強い構造に改良するものです。

本年度は、榛原港海岸の静波地区の工事を着実に進め、来年度以降は鹿島地区、更には相良港海岸の津波対策を順次進めることとしており、牧之原市民の方々の期待に応えられるように努めていきます。



式典の様子

～静岡県へのクルーズ船の寄港情報～

令和元年も多くのクルーズ船が県内港湾へ寄港しました。令和2年も新たなクルーズ船が続々と寄港予定です。令和2年5月18日(月)には日本船「ぱしふいっくびいなす」が田子の浦港に初寄港します!!

クルーズ船の寄港に合わせて、各港において様々な歓迎イベントを実施しておりますのでぜひお越しください。



☆バイキング・オリオン☆

(令和元年5月2日清水港初寄港)

- 総トン数：47,842t
- 全長：228.3m
- 全幅：28.8m
- 初就航：2018年
- 船籍：ノルウェー
- 乗客定員：930人
- 乗組員数：545人
- 客室数：465室
- 運航会社：バイキング・オーシャン・クルーズ



☆ぱしふいっくびいなす☆

(令和元年8月20日御前崎港初寄港)

- 総トン数：26,594t
- 全長：183.4m
- 全幅：25.0m
- 初就航：1998年
- 船籍：日本
- 乗客定員：460人
- 乗組員数：220人
- 客室数：230室
- 運航会社：日本クルーズ客船



☆マジェスティック・プリンセス☆

(令和元年8月22日初寄港、清水港史上最大!!)

- 総トン数：144,216t
- 全長：330m
- 全幅：38.4m
- 初就航：2017年
- 船籍：英国
- 乗客定員：3,560人
- 乗組員数：1,350人
- 客室数：1,780室
- 運航会社：プリンセス・クルーズ



☆ル・ラペルーズ☆

(令和元年10月8日清水港初寄港)

- 総トン数：10,000t
- 全長：127.3m
- 全幅：18.0m
- 初就航：2018年
- 船籍：フランス
- 乗客定員：184人
- 乗組員数：110人
- 客室数：92室
- 運航会社：ポナン

令和2年静岡県内港湾に初寄港するクルーズ船

寄 港 地	入 港		出 港	船 名	総トン数
清 水 港	3月 9日(月)	10:00	20:00	スペクトラム・オブ・ザ・シーズ ^{※1}	169,379t
清 水 港	4月28日(火)	9:00	19:00	クイーン・エリザベス	90,901t
清 水 港	4月30日(木)	12:00	20:00	ノルウェー جان・スピリット	75,904t
田子の浦港	5月18日(月)	8:30	19:00	ぱしふいっくびいなす	26,594t
清 水 港	6月10日(水)	12:00	20:00	インシグニア	30,277t
松崎港(錨泊)	8月18日(火)	8:00	17:00	飛鳥II ^{※2}	50,142t
清 水 港	9月11日(金)	8:00	17:00	スターブリーズ	9,975t
清 水 港	9月12日(土)	7:00	19:00	クリスタル・エンデバー	19,500t
清 水 港	10月27日(火)	7:00	14:00	レガッタ	30,277t

※1) 清水港史上最大 ※2) 松崎港で初めてのクルーズ船

静岡県港湾振興会の活動報告

日本港湾協会の令和元年度定時総会に出席

令和元年5月22日(水)、新潟県新潟市の朱鷺メッセ^{と き}で日本港湾協会の総会が開催され、会員である当振興会からは柳澤副会長(御前崎市市長)、中野焼津市長をはじめ18名が出席されました。

総会では、港湾功労者表彰式が行われ、静岡県の港湾の振興にご尽力された、山村 善敬様、大橋 徳治様、進藤 弘之様が受賞されました。



定時総会

静岡県港湾整備促進大会を開催

令和元年7月29日(月)、ホテルセンチュリー静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺会長(静岡市長)のあいさつの後、川勝静岡県知事、佐地県議会建設委員長をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。

御出席をいただいた柳澤御前崎市市長、杉本牧之原市長、齊藤熱海市市長、菊地伊豆市長、岡部南伊豆町長、長嶋松崎町長から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また、大会に先立ち、一般社団法人ヤマトグループ総合研究所 荒木 勉専務理事を講師にお迎えし、「物流の現状と将来」と題して、御講演をいただきました。



田辺会長(静岡市長)あいさつ



柳澤副会長(御前崎市市長)による決議文の読み上げ



講演会の様子

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

令和元年10月24日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは小長井副会長(富士市長)、柳澤副会長(御前崎市市長)、杉本副会長(牧之原市長)、齊藤熱海市市長、福井下田市市長、中野焼津市長をはじめ36名が出席されました。

大会では、来賓として多数の国会議員をお招きし、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備・振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、令和元年10月23日(水)、ホテルグランドアーク半蔵門で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、御出席をいただいた市町村の代表が意見発表・要望を行い、港湾整備への支援を訴えました。

大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

県外港湾視察研修

静岡県港湾振興会では、令和元年11月20日(水)～22日(金)の3日間、会員団体等から16名が参加し、北海道の紋別港、釧路港の視察研修を実施しました。

紋別港では、バイオマス発電による地域活性化、農林水産輸出促進計画に基づく屋根付き岸壁の整備、平成30年「第11回みなとオアシスSea級グルメ全国大会inもんべつ」開催についての説明がありました。Sea級グルメは、近隣町村も絡めたイベントとして開催し認知度も向上、この年の「ポート・オブ・ザ・イヤー2018」にも選ばれました。

釧路港では、釧路港国際物流ターミナルを視察し、釧路港の概要や全国初となる国際バルク戦略港湾の施設整備などの説明を受けました。また、民間埠頭会社が平成30年4月から30年間という長期にわたる港湾施設の貸し付けを受け、荷役機械を自ら整備し、埠頭の一体的な運営を実施していることについての説明がありました。

担当者からの丁寧な概要説明をいただき大変有意義な研修となりました。

各視察先では、雪と寒さが心配されましたが、視察中は天候にも恵まれ無事に視察を終えることができました。



氷海展望塔「オホーツクタワー」からの眺め



流水砕氷船「ガリンコ号II」
(流水を砕くドリルが付いている)



釧路港国際物流ターミナル

清水港開港 120周年記念事業の開催

開港120周年を迎えて

清水港は、令和元(2019)年8月4日(日)に開港120周年を迎えました。明治32(1899)年同日に開港場に指定されて以来、製茶の輸出に始まり、木材の輸入や缶詰の輸出などで栄えてきましたが、さらに古くは飛鳥時代にさかのぼり、日本書紀によれば、白村江の会戦に向けて造船の勅命がここ清水に下ったと言われています。

現在では、大型の外航コンテナ船やバルク船、内航RORO船などが多くの定期航路を持つ物流拠点として、また、多くのインバウンドをもたらすクルーズ旅客船が世界文化遺産である霊峰富士をバックに就航する人流の拠点として、目覚ましい発展を遂げております。

令和元年度は、そんな清水港の「過去を知り、今を見つめ、そして、未来を思い描く。」ことをテーマに「清水港開港120周年記念事業」を展開しています。



清水から、
つながる未来、
広がる世界。

清水港開港120周年記念ロゴ

清水港開港120周年記念事業の開催



120周年オープニングセレモニー(酒井会長挨拶)

清水港開港120周年記念事業の開催期間は、令和元年4月から令和2年3月までの1年間となっており、静岡県、静岡市、民間が連携して「清水港開港120周年記念事業実行委員会(会長:酒井静岡商工会議所会頭、事務局:静岡市)」を組織して運営に当たりました。

年間を通して、例年、または新規に各団体が実施する清水みなと祭りなどの催しを、「連携事業」として広報・助成して支援しているほか、海の日(7月15日)を含む3日間を「開港祭」と銘打って、清水港開港120周年記念開会式やしずおかのオンリーワン&ナンバーワンを知るための催しなど、多くのイベントを開催しました。

また、開港日である8月4日(日)には、清水港を一望できる日本平ホテルに関係者が一堂に会して記念式典を執り行いました。各方面からのご来賓からご祝辞を頂き、また、鈴与株式会社鈴木与平会長から清水港の発展の経緯を、静岡県難波喬司副知事から清水港の今後について講演を頂き、120周年の節目をお祝いしました。



海フェスタしずおか閉会式(特別講演:鈴木与平会長、難波喬司副知事)

「海フェスタしずおか」の開催

清水港開港120周年記念事業の一環として、7月13日(土)から8月4日(日)までの23日間で「海フェスタしずおか」を開催しました。

海フェスタとは、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日である「海の日」本来の意義を再認識し、海に親しむ環境づくりを進め、広く国民の海に対する関心を喚起するとともに、地域観光振興による交流人口の増加を図ることを目的とし、毎年、海にゆかりのある自治体で開催されており、今年は、清水港開港120周年の節目の年であるため、前身の催事である「海の祭典」が、静岡県全域で平成12年に開催されて以来、19年ぶりに清水港で開催されることとなりました。

開催期間中は、様々な海洋関係団体による展示が行われた海の総合展や、帆船や巡視艇、自衛艦など様々な船舶の寄港と一般公開などで賑わいました。訪れた人々が、清水港の昔を知り、その発展の経緯と現状の課題を認識し、今後の清水港の未来についてじっくり考えることのできる催しとなりました。

7月17日(水)から18日(木)にかけての2日間には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下にも来静いただき、民間造船会社やフェルケール博物館、海の総合展などを丁寧にご視察頂きました。また、海フェスタしずおか記念式典及び記念祝賀会にもご臨席賜り、お言葉を頂くことができました。



海フェスタしずおか記念式典(川勝知事挨拶)



海フェスタしずおか記念祝賀会(秋篠宮皇嗣同妃両殿下)

みなと“白慢”

今回のみなと自慢は、
浜松市と湖西市に
またがる浜名港です。

～マリンスポーツの聖地 はままつ～

浜松市 河川課

浜名港は、浜名湖の開口部に位置する遠州灘に面した港湾で、県西部地域の拠点港として、港湾区域内にある舞阪漁港とともに重要な水産基地となっています。

浜名湖は県内唯一の汽水湖で、周囲の長さは全国3位の114km(汽水湖では1位)。面積は70.4km²で10番目に大きく、平均水深は5m。海水と淡水が混ざり合う内海である汽水湖で、プランクトンが豊富なため、浜名湖で獲れる魚介類は700種類以上といわれ、まさに水産物の宝庫です。

また、浜名湖の湖岸が織り成す優れた景観と静穏な水面は、魚釣り、海水浴等の海洋レクリエーションの場としても人気があり、近年では、ビーチ・マリンスポーツの聖地として注目を浴びています。

1 ビーチ・マリンスポーツの聖地

穏やかな湖面と青い空の絶景が広がる浜名湖周辺には、サーフィンやフライボード、ヨットセーリングやビーチテニスなど、多様なビーチ・マリンスポーツのフィールドや施設が点在し、プロ選手からアマチュアまで多くの方が、さまざまなマリンスポーツを満喫しています。数多くの大会やイベントも開催され、県外からの観光客も多く訪れています。その楽しみ方は、自然の魅力を全身で体感できる“一流の遊び”ばかり。

自然と一体化する感動を味わいに、ぜひ浜松市へお越しください。



ヨットセーリング

2 浜名湖の贅沢



うなぎ

浜松の代名詞「うなぎ」。養殖発祥の地であり、100年以上の歴史があります。浜名湖周辺で稚魚が獲れ、地下水に恵まれたことなどから養殖が盛んになりました。



海苔

浜名湖は現存する最古の海苔養殖場といわれています。独特の製法でクロ海苔とアオ海苔をブレンドした風味と香りのよい混ぜ海苔が愛されています。



牡蠣

浜名湖の養殖牡蠣の歴史は古く、明治20年頃から試みたといわれています。身が大きく重量があり、ミネラルも豊富で濃厚な味わいが特徴です。

～浜名湖のまち こそい～

湖西市 土木管理課

1. はじめに

静岡県最西端、愛知県との境に位置する湖西市は、緑豊かでトレッキング・コースとしても親しまれている湖西連峰、日本有数の美しく豊かな砂浜海岸である遠州灘、そして観光・レクリエーションや四季に応じてさまざまな魚種が楽しめる浜名湖に囲まれた、自然豊かで温暖な気候の美しいまちです。本州のほぼ中央に位置していることから、古くから海上交通・輸送の要所として栄え、当時の建物が日本で唯一そのまま残る新居関所や白須賀宿には昔ながらの町並みを残しています。

現在の湖西市は、世界の発明王である豊田佐吉生誕の地、世界に冠たるトヨタの原点の地として、輸送用機械器具、電気機械器具などの製造業を中心とした自動車産業が一層の発展を遂げています。また、恵まれた自然を活かした農業・漁業の合理化・近代化、区画整理や道路整備に伴う商業の充実、人口減少対策としての移住・定住の促進など、さまざまな施策が進められています。



浜名港

2. 浜名港について

浜名湖の南部、遠州灘との開口部今切に位置する浜名港は、漁業や観光などの基盤としての重要な役割を果たしています。新居弁天地区には、海釣公園、海湖館（体験物産施設）、緑地広場等が整備され、海洋レジャーの拠点となり、近年では浜名港の魅力を伝えるイベントとして浜名湖ミナトリングの開催や2020年7月には浜名湖キューバヘミングウェイカップも予定され、より一層賑わいのある港湾となることが期待されます。また、水産基地として重要な役割を果たしていると同時に、静岡県地域防災計画において防災拠点港である御前崎港の補完港として、県西部地区の防災港湾に位置づけられ、緊急輸送の拠点としても大きな役割を担っています。



海湖館



海釣公園



浜名湖ミナトリング
(消波ブロックへのお絵描き)

3. 浜名港のみどころ

①今切体験の里 海湖館

浜名湖や海にちなんだ各種の体験学習ができるコーナーや湖の魚の展示コーナー、釣りや観光情報コーナーがあります。バーベキュー場も整備され、アウトドアを満喫することができます。

②海釣公園

多くの種類の魚が生息し、年間を通じて釣り人のにぎわいます。

③新居弁天海水浴場

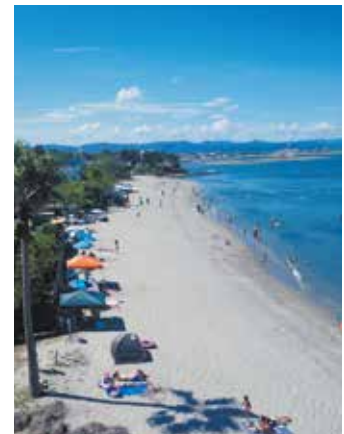
今切口の西側にある約500mの砂浜を利用した海水浴場です。太平洋に近く水のきれいさと広大な景観が自慢です。

④浜名湖ミナトリング

マリレジャーや船の魅力を中心に、乗船体験、アート、食を通し、浜名湖の魅力を満喫するイベントです。

⑤浜名湖キューバヘミングウェイカップ

スポーツフィッシング、ビーチマリンスポーツ、食文化、音楽などを通し、キューバ共和国と友好交流を深めるイベントです。



新居弁天海水浴場



ヘミングウェイカップ参考写真

～港こぼれ話～

『シ』が取りなす縁

元静岡県交通基盤部清水港管理局技監
柴田 三夫



1.はじめに

寄稿にあたり47年前の入庁時から振り返ることにしましたが、脳内は町内会長の行事で埋め尽くされ、枯渇状態で、こぼれ出る話があるだろうかと思ひながら綴ってみました。

昭和47年4月、島田土木事務所島田支所が公務員人生のスタートでした。

昭和49年5月9日、南伊豆町の石廊崎沖では「伊豆半島沖地震」と呼ばれるM6.9の地震が発生し、7月7日には「七夕豪雨」と呼ばれる未曾有の大雨が降り、静岡県では大きな災害を経験する年でした。

2.海と港との出会い

昭和50年、思いもよらぬ下田土木事務所への転勤でしたが、真面目に記述した意向調書の内容がふざけた内容と勘違いされてのことだろうと今でも思っています。赴任後、南伊豆町の青野川水系、翌年、下田市の稲生沢川水系で、50年に一度の洪水に見舞われる激甚災害を経験し、下田港で初めての災害復旧工事を担当します。

「いのうざわがわどこが港なの」、私には稲生沢川河口部の水域は、大井川港や焼津漁港の形態と比較してイメージから逸脱していました。河口部から1つ目の橋が河川と港湾区域の管理境界ということも初めて知りました。橋の下流



稲生沢川河口部

にあった「床固工兼帯工」が流失したため、方塊製作と据付工の復旧工事を申請したことが「港湾」への始まりでした。現在の両地区周辺は、再開発が進んで、陳腐な風景はなく、昔の面影も僅かしかありません。

また、吉田松陰が黒船に乗り込もうと隠れていた弁天島を繋ぐ防波堤の計画、設計を最初に手掛けたのは私でした。道路や河川、橋梁等の整備が主流であった時代、港湾に関しては、経験豊富な先輩はM川さん、一人しかいませんでした。アドバイスを受けながら国の認可を経て、工事着工、捨石マウンドや方塊製作に進み、完成への楽しみが待ち遠しく感じていましたが、所内異動により、維持調査課に配属され、昭和53年1月14日、伊豆大島近海地震が発生します。

これ以降、仕事はブラック、私生活も地獄に落ちていきます。



弁天島を繋ぐ防波堤

3.港湾技術者としての覚醒

現在の御前崎港の女岩地区は、大手企業等が進出し地域経済を支える原動力となっていますが、赴任時の昭和56年頃は、海面上に外郭施設が完成したばかりでした。ポンプ船による航路・泊地浚渫での埋立て工事をスタートする時期でした。起債事業の償還計画や埋立申請、環境アセスメントの検証作業等に追われ、港湾技術者としての基礎が培われた時期でもあります。

その後、臨港道路1号の4車化工事にも携わりますが、物流機能や港湾計画の本質については、4年間の勤務でも、理解には至りませんでした。

4. 港湾課環境係の勤務

平成4年、田子の浦港は、まだヘドロのイメージが色濃く残る負の時代であり、潤井川や岳南排水路からの流下物で堆積する浚渫土の処分場の確保が急務でした。好気性微生物による土壌改良、高圧フィルタープレスを併用した焼成スラグ等、セメント添加剤以外の減量化手法に取組みました。民間企業に頼り、富士山麓の山間部に山土材の採取地を求め、排土後のポケットに浚渫土を埋立てることも、地域事情からも限界に近づいていました。瀬戸内海に点在する離島の石切り場跡地、山梨県内の風穴地への埋立て等、危険な臭いが漂い身の危険も感じましたが、廃棄物埋立護岸の計画が軌道にのるまではと思い、処分場の確保と延命に尽くした記憶があります。

5. 漁港整備室計画課の勤務

福田漁港は、太田川と坊僧川が合流する河口部に位置し、遠州灘の漂砂による慢性的な港口閉塞の恒久対策として、下手の浅羽海岸に砂を供給する国内初のジェットポンプによるサンドバイパスシステムを導入する計画を平成16年から進めていました。オーストラリアのカルドノ社が専売特許を所有し、漁村研が事業計画の取りまとめ業務にあたりました。水産庁、東京大学、漁村研を飛び回り、平成18年6月、サンドバイパスシステムの検討委員会を設置し、事業化が承諾されました。担当者として、二転三転する事業費、特許料の取り扱い、信頼性、安全性、維持管理費、システムのブラックボックス等、不信感が多く残りました。事業着手後、やはり当時の予感は的中しました。

6. 最終寄港地 清水港の思い出

現在、活発な活動を続ける新興津地区のコンテナターミナルですが、工事着手前の平成10年当時は、津波対策とコンテナターミナルの土地造成に向けて、清見寺地区の住民代表の方々と話し合いを重ねていました。この議論は、住宅の移転に向けて山間部を開発すること、開発により発生する土砂を神戸方式と呼ばれる大口径のパイプラインで海まで運び出し土地造成を行うという一石二鳥を狙ったものですが、計画を動かす

ための民間開発者の資金調達が難航し、夢幻の計画となってしまった苦い思い出があります。

平成11年には、清水港開港100周年を迎え、官民挙げての様々なイベントが10のテーマに分かれて行われ、このうち、「物流」をテーマにしたグループでは、清水港で開業する企業5社の担当者と隔週、土曜日の午後から2時間、半年間にわたり、コンテナの物流機能と販路拡大等について協議しましたが、企業間の機密事項に触れるテーマが多いことから、核心部の整理は困難を極めました。

また、日の出再開発施設の利便性や管理をテーマとしたグループでは、ランドマークとなるモニュメント、タイムカプセル、オブジェの設置等を提案しました。このグループは、開港120周年を迎えた現在も、NPO法人「夢生の会」として20年間、活動を継続しています。私は、公園内に設置したオブジェの命名者と



夢生の会のシンボル

して、会にも名を与えた仕掛け人の一人であるため、現在、微力ながら運営のお手伝いをしています。会の名称は、私の一人息子の名をもじっており、唯一、特権を利用して私情を挟んで名付けました。

平成24年、再び清水港に勤務する機会を得ましたが、待ち受けていたのは折戸地区に集約するプレジャーボートの係留施設を巡る利用者との長いトラブルでした。利用者側に寄り添うTV取材では、相手からの罵声を浴びながらも感情的にならぬ様、応じたことを覚えています。退職までの2年間は、ストレスの多い職場でした。

7. まとめ

港湾に携わり、物流やものづくりに関して何か自慢できるものはあるかと問われれば、全てが中途半端な状態で終わっており、後悔はあれど自慢するものではありません。清水港の港湾計画の改訂作業、焼津漁港、福田漁港の漁港漁場整備計画等にも関わりましたが、これで良かったのかと己を納得させることはできないまま町内会の行事に奔走する毎日です。

港湾関係行事予定 (令和2年2月1日～令和3年1月31日)

日 程	内 容
1月中旬～3月下旬	牡蠣小屋(湖西市 海湖館)
2月9日(日)	田子の浦みなとマルシェ(富士市 田子の浦港)
2月15日(土)・2月16日(日)	網代温泉ひもの祭り(熱海市 長浜海浜公園)
3月1日(日)	田子浦みなとマラソン大会(富士市 ふじのくに田子の浦みなと公園)
3月7日(土)・3月8日(日)	第35回伊豆多賀わかめまつり(熱海市 長浜海浜公園)
4月11日(土)	いと漁協水産祭り(伊東市 伊東魚市場内)
4月12日(日)	焼津みなとまつり(焼津市 焼津港内港)
4月18日(土)・4月19日(日)	御前崎シーサイドピクニック(御前崎市 マリンパーク御前崎)
4月18日(土)・4月29日(水・祝)・5月9日(土)・6月14日(日)・6月27日(土)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
4月25日(土)	沼津水産祭(沼津市 沼津港)
4月29日(水・祝)	大井川港朝市(焼津市 大井川港)
4月予定	ポートタウンパーティー(沼津市 沼津港)
4月予定	沼津みなと新鮮館周年祭(沼津市 沼津港)
5月1日(金)～5月5日(火・祝)	第45回初島ところ天まつり(熱海市 初島港特設会場)
5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)	なぶら祭り(御前崎市 海鮮なぶら市場)
5月3日(日・祝)～5月5日(火・祝)	御前崎灯台まつり(御前崎市 御前崎灯台)
5月3日(日・祝)～6月28日(日)	地引網体験(伊東市 伊東海岸) ※毎週日曜日のみ
5月15日(金)～5月17日(日)	第81回黒船祭(下田市内各会場)
5月30日(土) 予定	第10回御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎魚市場)
5月	SHIMODA RENDEZVOUS 2020(下田市内)
5月予定	ぬまづ港の街BAR(沼津市 沼津港ほか)
7月18日(土)・7月19日(日)	浜名湖キューバヘミングウェイカップ(湖西市 浜名港)
7月18日(土)・7月19日(日)	浜名湖ミナトリング(湖西市 浜名港) ※予定
7月19日(日)	踊夏祭・トライアスロン大会(焼津市 大井川港)
7月21日(火)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)
7月22日(水)	田子の浦港海上安全祈願祭(富士市 田子の浦港)
7月26日(日)・7月31日(金)・8月5日(水)・8月18日(火)・8月21日(金)・8月23日(日)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
7月上旬	御前崎海水浴場海開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
7月中旬	国際カジキ釣り大会(下田市 下田沖)
7月中旬	マリンフェスタ(下田市内)
7月中旬	白浜海の祭典・花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
7月中旬	田子浦みなと祭り(富士市 ふじのくに田子の浦みなと公園)
7月下旬	小学生ふるさと教室「漁業体験」(伊東市 富戸海岸)
7月	CABO VIKING CUP(下田市 下田沖)
7月予定	マリンスポーツフェスタ(御前崎市、牧之原市 御前崎マリーナ)
8月1日(土)	宇佐美夏祭り打上花火(伊東市 宇佐美海岸)
8月1日(土)	御前崎みなと夏祭り2020(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月1日(土)～8月4日(火)	あたまビールまつり(熱海市 渚親水公園)
8月4日(火)	第73回初島・熱海間団体競泳大会(熱海市 熱海湾)
8月8日(土)	「灯籠の流れ」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月9日(日)	「太鼓の響き」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月10日(月・祝)	投針祭海の花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月12日(水)	伊豆多賀海上花火大会&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月14日(金)	やんもの里花火大会(伊東市 八幡野港)
8月14日(金)	焼津海上花火大会(焼津市 焼津港外港)
8月15日(土)	川奈港いるか浜花火大会(伊東市 いるか浜)
8月16日(日)	伊豆多賀温泉百八体流灯祭&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月16日(日)	網代温泉海上花火大会(熱海市 網代湾)
8月18日(火) 予定～8月20日(木) 予定	土肥サマーフェスティバル(伊豆市 土肥屋形海岸)
8月22日(土)	伊東温泉箸まつり花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月28日(金)～8月30日(日)	第73回清水みなと祭り(静岡市 清水港)
8月	Trans-Sagami Yacht Race(下田市 下田沖)
8月	静岡県知事杯石廊崎レース(下田市 下田沖)
9月22日(火・祝)・10月10日(土)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
9月上旬	ビッグシャワー海洋浴の祭典(下田市 吉佐美大浜海岸)
10月上旬	大井川港釣り大会(焼津市 大井川港)
10月下旬	小川港さば祭り(焼津市 小川港)
11月中旬	田子の浦ポートフェスタ(富士市 田子の浦港)
11月予定	第10回御前崎マリンパークマラソン(御前崎市 マリンパーク御前崎)
12月6日(日)・12月13日(日)	忘年熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
12月22日(火)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東海岸)
令和3年1月1日(金・祝)	初日なぶらイベント(御前崎市 観光物産会館)
令和3年1月中旬	第55回伊東オレンジビーチマラソン2021(伊東市 国道135号バイパス)

編集後記 |

令和元年11月20日～22日に行われた県外港湾視察(紋別港・釧路港)に同行させていただきました。紋別市から釧路市へは、移動距離が長く早朝の出発となりましたが、微かに雪が舞っておりそれだけで心が弾みました。雪景色ではありませんでしたが移動中に「丹頂鶴」が見られたことも良い思い出となりました。
今年が皆様にとって良い年になるようお祈り申し上げます。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。